

北アルプス登山情報支援システム整備事業

取り組みに至る背景・事業の目的

- 地域で課題となっていたこと
北アルプスは長野県の重要な山岳観光地であるが、近年登山者の減少が続いている。
また、現在は中高年登山者が主流で事故など多く発生している。
- これまでの取り組みとアイデアが生まれた経緯
北アルプス山岳無線LANネットワークは平成10年より総務省の研究開発事業として実験を行ってきた。総務省の研究開発事業が終わり、民間での研究を進めるためNPO法人を設立し現在に至っている。
登山者の多くは、インターネットより情報を収集して、登山計画を立てている状況であり、積極的な北アルプスからの情報発信が必要であると考え、本事業を計画した。

事業内容

槍ヶ岳山荘、涸沢ヒュッテ等の山小屋16箇所にお天気カメラ、気象観測機器（風速計、雨量計、温度計）を設置した。

データは長距離無線LANにより北アルプスブロードバンドネットワーク事務局に送信され、インターネットを通じて各利用者のパソコンからリアルタイムで閲覧可能とした。



事業効果

- 北アルプス南部の山小屋16箇所気象観測機器とお天気カメラを設置し、一般登山者に山岳の気象情報とライブ映像を提供することにより、安全安心な特色ある山岳観光の振興に寄与した。
- ホームページのアクセス数 H19年度 152,646件
- 会員の登録数 H19年度 2,392人
次年度以降も積極的に広報活動行うことで、山岳観光の振興に寄与できると考える。
- 山岳気象データは信州大学山岳科学総合研究所で分析を行うなど、学術的にも活用されている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 3000メートル級の北アルプスの山小屋にカメラ、気象観測機器を取付けることは、輸送、設置の両方ともに大変苦労した。
- 今後の取り組み
近年、北アルプスには、多くの外国人登山者が入山しているが、あまり北アルプスの情報を持たずに入山してくるため、生活習慣の違いによる日本人登山者とのトラブルや、無理な登山計画による事故が発生している。このような状況からインターネットによる情報発信を多言語化する必要があり、平成20年度の元気づくり支援金を利用して事業を進めているところである。

【選定のポイント】

山岳観光の振興としてモデル的な事業であり、今後他県への波及効果が期待できる。

団体名	NPO法人 北アルプスブロードバンドネットワーク (松本市)	事業タイプ	ハード事業
連絡先	中原安則 0263-28-4030	事業費	5,000,000円
		支援金額	3,200,000円